

2年間のゼミ生活で得たもの

第5期生 鷲見 卓也

2年間のゼミ生活を改めて振り返ってみると、実に濃密で、そして充実した毎日であったと思う。そんな日々のゼミ生活において、私は特に2つの大きなものを得たと思う。1つ目は、思慮深くなることである。ゼミに入会する前の私は、考える前に言葉に出すことが常であった。しかし、ゼミ内において仲間と議論を交わすことを通じて、一時的な思いつきで発した言葉はすぐに反論の対象となることを痛感させられた。また、それと同時に、同じゼミにいる仲間が、議論の対象について非常に深く考えていることに驚かされ、感心させられることも何度もあった。そうした体験を何度か繰り返すうちに、次第に思案する事柄についてしっかりと考えるようになっていった。私にとって、思案する事柄について思慮深くなることの重要性を知れたことは非常に有意義であった。しかし、それに伴って、こういった発言をしたら反論を受けるのではないかと、そもそもこの考え方は正しいのかといったことを自問するようになった。そのため、持ち前の発言力が多少なりとも低下してしまったように思われることは反省すべき点である。今後の社会人生活において改善していきたいと考える。

2つ目は、やはり何といても仲間である。私がこの2年間のゼミ生活を有意義に、そして何より楽しく過ごせたのは、今いる同期の仲間のおかげであると思う。ゼミに入会する前までは、それまでの大学生活の経験から、サークル以外では中学や高校の時と同じような付き合い方ができる友人はできないであろうとっていた。しかし、ゼミに入会し、そこでの活動を通じて次第に仲が深まるにつれて、同期の仲間は本当に信頼の置ける存在となった。また、さらには尊敬さえしてしまうような存在となった。5期の仲間は皆個性が非常に強く、まさに十人十色の性格を持ち合わせている。そんな同期は、皆、私が持ち合わせていない魅力的な部分を持ち合わせており、ゼミ活動においても、それ以外の場面においても、大いに彼らに刺激されることが多かった。このような仲間からの刺激により、私は自身の新たな一面を発見することができたり、自身の考え方や行動が変化させられたりすることも多かった。物事に対しては真剣に意見をぶつけあえ、楽しむ時には心底から一緒に楽しめる存在である、そんな仲間と大学時代に出会えたことに本当に感謝したい。卒業後も、折あるごとに皆で集まり、馬鹿話に花を咲かせられることを楽しみにしている。

そして最後に、小野先生に感謝の意を心から述べたい。出来が悪く、いつも先生の手を煩わせていた私を、懇切丁寧にご指導していただき本当にありがとうございました。社会人となる前に、先生からご指導を受けることができ本当に幸せでした。卒業後も、末永くよろしくお願いたします。



グアムでダイビングに挑む著者（右から2番目）と同期